

関西外国語大学

英子国際学部・英語国際学科

166024

中野 沙紀

1日目（18日）

13時に関西国際空港に集合。この時点では各大学で固まり、旅への期待と緊張感が感じられた。荷物の量に関しては、大きめのスーツケース一つに手荷物、男性の場合は機内持ち込み用の小さいタイプのスーツケースが多かったように感じる。



2日目（19日）

中国教育国際交流協会にて、北京大学の教授より中国の歴史や情勢について学んだ。お昼はこの旅初の北京ダック。少し野性味を感じたが、皆楽しんで食事をしていた。

午後は、中国外交部にて、スポークスマンによる会見の様子を見学。大勢のカメラマンや記者たちが集い、私たち傍聴者には同時翻訳機が配られ、英語による通訳で内容を理解した。その後、先ほどのスポークスマンが私たちの元へ現れ、団長をはじめとする4名の質問に丁寧に答えてくださった。

スポークスマンの方に直接質問をできる機会はそうそうないため、予め質問を考えて行くことをオススメする。

夜にはホテルにて歓迎会？が行われ、緊張混じりだった学生たちにも笑顔がこぼれた。近畿を中心に西日本各地から大学生が集い、学歴で圧倒されがちだが、それ以上に一人一人の個性を感じることでできる貴重な体験だった。

同一の大学での会話もちろん大切だが、一週間という短い期間だから、機会があればどんどん外出して生の中国を体感して、他大学生との交流を楽しむべきだと感じた。



3日目(20日)

午前中は北京大学を訪れ、英語と中国語を駆使して現地の学生と交流したのちに、校内を見学した。ディスカッション内容は就職に関することや自身の趣味に関する事など多岐に渡った。自分の自己紹介を中国語（もしくは英語）できると話し合いが円滑に進む。敷地内には大きな湖があり、写真撮影スポットだった。

午後は故宮に訪問し、想像を超える規模の大きさに驚かされた。関西外国語大学の赤い旗は反政府の集団と勘違いされるのか、警備員に広げることを止められることが多くあった。

夕方には 雑技団を鑑賞した。素晴らしい席で鑑賞することができ、ダイナミックな演技に拍手喝采だった。雑技団には幼い子供や、性別年齢を問わずにパフォーマンスが行われていた。中には命綱のないものがあり、固唾を飲んで見守った。



4日目（21日）

7：20にフロントに集合し、万里の長城に向けて出発した。二年生の留学時と同じ登頂口で当時を思い出し、とても懐かしく感じた。前回は階段を使い、頂上まで登頂したが、今回はロープウェイでの登頂で頂上まであったという間だった。

それでもたくさん歩くことに変わりはないため、履きなれた靴で行くことをお

勧めする。上については外大で集合写真を撮り、そののちに各自で登ることとなった。昼ごはんを食べた後に天壇公園に向かった。天壇公園では当時の皇帝の偉大さを感じ、さらにいたるところに験担ぎがしてあり、偉大な人物でも運に頼ることがあるのだな、と感じた。



5日目（22日）

この日はまず、先日時間の都合上延期になった梅蘭芳記念館を見学した。男性でありながらも京劇で女性役を演じ、その姿もとても美しいものであった。記念館には当時の住まいが展示してあり、その住まいとは別に、大きな別荘を所有していたようで彼の財力に驚かされた。その後798芸術区を訪れおしゃれな街並みを堪能した。芸術区というだけあって展示会が至る所で行われており、日本の浮世絵の展示会も行われていた。日本の文化を中国で感じる事ができて大変嬉しく感じた。

午後は頤和園を見学し、自然のものだと思っていた湖が人工のものであり、その湖を掘り上げた土が隣にそびえる山だと知った時はとても驚いたと同時に、建築に何万人の人員が動員されたのかと疑問に感じた。

夕食を食べたのちに京劇を鑑賞した。中国の伝統芸能である京劇を鑑賞するのは初めてで、自分の想像以上にアクロバットが多く驚いた。字幕が表示され、外国人でも理解しやすい内容だったと感じる。



6日目（23日）

この日は師範大学にて、日本語を学ぶ大学生と交流をした。北京大学のときは異なり、自由時間が多く、自分から学生に話しかけて交流をするという内容だった。お互いの国の学生が特技を披露しあった（朗読・歌・漫才・柔道など）。

なにか芸がある人は予め準備をして行くと楽しい時間になると思う。

午後は北京航空航天大学を見学し、隣接してある博物館に行った。英語で説明

がなされ、質問もすべて英語で行われた。役目を終えた戦闘機や飛行機が展示してあり、なかなか間近で見ることのできる機会は少ないため感動した。また、博物館が大学内にあるというのも変わっていて楽しく見学ができた。



7日目（24日）

いよいよ帰国日になった。この七日間予定ぎっしりで大変有意義な時間だったと感じる。この一週間がなければ出会えることのなかった仲間たち、中国人の友人たち、すべての出会いに感謝したいと思う。

この経験をさせてくださった 中華人民共和国駐大阪総領事館さま、中国駐大阪
観光代表処さま、中国東方航空大阪支店さま、さらに関西外国語大学の先生方
に厚く感謝を申し上げたいと思います。一生忘れることのできない、貴重な経
験をさせていただき、ありがとうございました。



西日本大学生友好訪中団 活動報告

関西外国語大学 英語国際学部 英語国際学科

166287

石谷 菜摘

9/18 (1日目)

- ・北京に到着
- ・夕食

北京に到着し、皆で老辺餃子館という餃子の美味しいレストランで夕食。2年ぶりに食べる本格中華は絶品でした。



9/19 (2日目)

- ・中国教育国際交流協会訪問と中国国情講座
- ・中国外交部新聞報道局訪問
- ・歓迎会

中国教育国際交流協会では、中国について様々なことを教えてくれ、特に中国人と日本人の特徴の違いについての説明が印象的で面白かったです。

午後からは外交部新聞報道局を訪問し、生の外務官の記者会見を見学。外交官の方がおっしゃった、本物の中国を自分の目で見て帰ってほしい、という言葉が心に残りました。

夜の歓迎会では、主に訪中団のメンバー同士で交流を深め、1週間中国をとことん楽しもう！と思える時間でした。



9/20 (3日目)

- ・北京大学訪問、交流会
- ・故宮見学
- ・朝陽劇場雑技鑑賞

北京大学の学生にキャンパス内を案内してもらいました。日本の大学とは比べ物にならないほど広がったです。お昼からは世界遺産である「故宮」を見学。ものすごく広い場所で歩くのが大変でしたが、龍のうろこをモチーフにした模様やそれぞれの建物の意味をガイドの銭さんが教えてくれたので楽しめました。中国の雑技と呼ばれるサーカスも見るほうがハラハラするほど高度な技ばかりでとても楽しめました。



9/21 (4日目)

- ・万里の頂上
- ・天壇見学

世界遺産の「万里の長城」を訪れ、何とか一番上まで登りきりました。見たことない程急な階段で実際歩くとものすごく大変ですが、上った時は達成感がすごいので訪れた際はぜひ上ってみてください。

午後からも世界遺産の「天壇」を見学。皇帝が天地の神を祀るために作られた場所で、階段や柱が陰陽思想に基づいて9の倍数でできているなど、情報があるだけでただのきれいな建物には見えなくなります。中国の歴史を感じることができる場所でした。



9/22 (5日目)

- ・梅蘭芳記念館見学
- ・798 芸術区見学
- ・頤和園見学
- ・京劇鑑賞

中国の伝統芸能である京劇を世界に広めた梅蘭芳の記念館を見学。男性だが女形を演じており、どことなく日本の伝統芸能にも似ているので、日本人なら馴染みを持ちやすいと思いました。798 芸術区は近代アートで街中がおしゃれなので、タピオカミルクティーを飲んだり雑貨を見たりして楽しみました。世界遺産である頤和園では、皇帝により意図的に湖や山が形成されたところが興味深かったです。夜、ホテルで京劇を鑑賞しました。難しいのかなと思っていましたが、ストーリーが複雑ではなかったので楽しんで観ることができました。



9/23 (6日目)

- ・首都師範大学見学
- ・北京航空航天大学見学

首都師範大学の学生との交流では、中国の学生は自分の興味に対してとても積極的だなという印象を受けました。同年代の学生とお互いの国の音楽やアニメについて話をし、楽しい時間を過ごすことができました。

お昼からは北京航空航天大学を見学しました。宇宙分野や航空に関する分野で中国政府からも注目されている大学で、併設されている博物館も見学させてもらうことができ、貴重な経験になりました。



感じたこと

今回、初めての訪中ではありませんでしたが、中国についてまだまだ知らないことがたくさんあるなと感じました。二年前に留学した際は、中国の言葉や中華料理にばかり関心があったのですが、今回多くの世界遺産を訪れたことで歴史や文化に対して関心を持つきっかけになったと思います。それと同時

に、日本の歴史や世界遺産についてももっと深く知りたいと思えるようになりました。中国のレストランでは至る場所で赤いランタンや鯉などの絵が飾られており、文化を重んじる点が素敵だなと感じました。中国滞在中にお会いした方々がよく仰っていたのが、「本当の中国というものを自分自身で体感してもらいたい」ということです。訪中団で一緒に行ったメンバーが、中国に来てイメージが180度変わったと仰っていたのを実際に聞き、現地に行って体験することがいかに意味のある事かということに改めて感じました。1週間という短い滞在ではありましたが、この期間でさらに中国が好きになったと思います。

後輩に向けて

中国に興味がある人も中国に対して不安を感じている人も、一度足を運んでもらいたいと思っています。私自身、初めて中国に行くまでは不安でした。しかし、留学をしていた先輩が話してくれた中国の話聞いて訪れてみたくなり、中国語の習得という目的で初めて中国に行きました。その結果、それまで抱いていた先入観を大きく変えることができました。新しいことや何か面白いことに挑戦してみたい、本場の中華料理を食べてみたい、世界遺産を巡ってみたい、などきっかけは色々だと思います。まずは現地に行って、本当の中国がどんなところかを感じてほしいです。そして、中国を好きになる人が増えれば、それが中日友好の架け橋になると思うからです。

2019年西日本大学生友好訪中団 振り返り

初日

夜6時（現地時間）に中国首都国際空港へ着陸。空港に着いた時点でも中国の雰囲気を感じ、懐かしさを感じずにはいられなかった。二年前の留学時との違いはセキュリティが増えていたこと。その後ガイドさんと合流し、レストランへ。



水餃子のお店へ（老边饺子）その他多種の料理

お手洗に行く他大学の学生の中で、お手洗いにトイレットペーパーを置いていないことを知らない学生もいた。外大以外に中国語を学んでいる学生、中国の文化をあまり知らない学生も多くいたので、外大生は積極的にサポートをしてあげたほうが良いと思った。

2日目午前



中国教育国際交流協会では、中国の大学事情について、北京大学と清華大学を主な例として、北京大学の先生からお話をお伺いしました。日本と中国の事情を比較することで、より深く中国について知ることができました。

2日目午後



外交部報道局内部（※記者会見場などは撮影禁止、公開禁止のため写真はありません。）
報道官による記者会見（20分）を見学しました。世界各国の記者の方も来られていた。見学後、
報道官との交流・質疑応答などを行い、貴重な意見、時間を得ることができました。

3日目午前 北京大学訪問



北京大学（未明湖）

北京大学では、質問をお互いにしあったり、校内を案内してもらったりしながら交流をしました。
みな日本語、中国語を話せない状況もあったが、互いにコミュニケーションを取り、良い交流
ができました。

3日目午後 故宮参観



ガイドさんから歴史的な背景の説明を受けながらの参観は自身で訪れた際とは異なる見え方ができ、とても興味深いものでした。建物の色からも時代の背景を見ることができ、おもしろかったです。

3日目夜 朝陽劇場にて雑技鑑賞



印象では、中国のひとつの特徴でもある文化、公演であると思います。外国人団体旅行客や中国の団体旅行客も多く訪れており、大変人気のあるものだと実感しました。

4日目午前 万里の長城



慕田峪の入り口から入り、ロープウェイで長城付近まで上り、下車以降自らの足で万里の長城を踏みしめました。多くの人が30分から40分で行くことが可能な一番高いところまで登っていました。

4日目午後 天壇公園



天壇公園もガイドさんによる歴史的背景などの説明を受けながらの参観で、理解が深まったのと同時に、関連の名所古跡への理解もできました。

5日目午前 梅蘭芳記念館



京劇に多大な影響を与え、京劇に革命を起こした梅蘭芳の記念館を観覧しました。このような人物がいることは今回の訪中で初めて知りましたが、記念館のスタッフの方の詳しい説明により、いかに京劇を進化させ、広めてきたのかがよく理解できました。

798芸術区



アートの町として有名な798芸術区では、おのおのが自由に過ごし、芸術的な町並みを堪能しました。また、日本に葛飾北斎を含む日本の芸術展の開催されており、まさしく芸術の町でした。

5日目午後 頤和園



広大な敷地に、陸、山、湖すべてが人口で作られた場所で、ここでは中国各地の景色がちりばめられており、中国をより一層感じられました。ここでの景色ひとつひとつが価値あるものでした。

5日目夜 京劇



訪中期間中滞在したホテル館内にある梨園劇場で京劇の鑑賞をしました。同日の午前梅蘭芳記念館の参観を経た後だったので、ただ見るだけではなく、京劇の中にある奥深さを考えながら鑑賞し、有意義な時間を過ごせました。

6日目午前 北京首都師範大学



ここでは主に首都師範大学日本語学科2年生の学生との交流をしました。お互いに質問をしあったり、自分の地元を紹介したりなどさまざまな話を通して交流しました。また、中国語のスキルの向上も実感することができました。

6日目午後 北京航空航天大学



ここではまず北京航空航天大学の概要を聞く講義に参加した後、戦中活躍した戦闘機などが展示されている航空航天博物館を参観しました。

7日目 帰国

まとめ

今回の訪中の趣旨は日中友好でした。上記で述べた通り1週間という短期間の中で、数多くの場所を訪れ、中国の歴史、事情などについて学んだことや学生との交流を通して、両国は友好を達成すべき友人であり、これまでの歴史問題や現在の両国の国勢を理解しあい、前に進んでいくべきだと感じました。国、政府レベルでは、互いの国益を守るために争ってしまうこともありますが、それは仕方のないことだと思います。本当に大事なのは人民レベルの交流が促進され、人民が国家間の関係を良い方向に変えていくことだと思います。そのために僕は個人が中国に対する理解を深めていくだけでなく、日本という国をも理解する必要があると感じたので、日本という国についてまた勉強し、理解していきます。その上で、いろんな人に中国の良さを広め、日中友好が完全に達成される日を目指したいと思います。

関西外国語大学

英語国際学科

166481

井口健輔

9月某日

令和元年度西日本大学生友好訪中団の副団長になりました。

9月10日 事前研修会

ここで参加者44名のほぼ全員と引率の先生の紹介やWECHATの使い方や、役に立つ中国語の紹介が、団長と副団長により紹介されました！



9月18日 大阪から北京へ

お昼に集まり、夜に北京に着きました。中国が初めてという人がほとんどのなか、初めての食事をしました。10人がけのテーブル、回る台に関心を持ちつつ現れたのは、まずスプライトとコーラでした。これなら安心だ！ということで各々コップに注いだあと、お待ちかねの料理が続々と運ばれてきました。トップバッターの餃子がまずみんなのテンションをあげます。ほかにもスープや炒めもの、焼き餃子、魚が団員の目と口、そして心を刺激しました。

のち、豪華なホテルに到着しました。



9月19日 中国国情講座 外交部 歓迎会

日本語が上手な教授が中国について教えてくれました。日本人と中国人の違いや中国には大学が少ない等の様々な中国の文化を知るための情報をくれました。また、毛沢東の詩の話をしてくれた時は中国の人は毛沢東が好きな人がやはり多いと感じました。午後は外交部で記者会見の様子を見学したのち、外交部の方と団員との話し合いの場が設けられ新鮮でした。

歓迎会では、団員や引率の方々の自己紹介がありました。歌、日本の伝統芸能、漫才が披露され宴会場を盛り上げました。



9月20日 北京大学 故宮 朝陽劇場雑技鑑賞

北京大学でグループごとに分かれ大学生と中国語、英語、日本語を用いて学校の違いや自国の好きな場所などを話しました。その後、広いキャンパスを案内してもらったあと、記念撮影をしました。

午後に故宮に行きました。一号車と二号車の二つのグループに分かれ、ガイドさんの説明を聞きながら回りました。大きな門のところが中で悪さをした人が入る牢屋という設定は驚きました。なんでも、中は、閉鎖的な空間で、中で罪を改めさせるよりも、外の人により近い場所で改心させるほうが効果的らしいです。



9月21日 万里の長城 天壇公園

万里の長城はすごい迫力でした。

天壇公園は、青は神様の色だということや、麻雀の役ではなく三度の試験で成績が最も優秀だった人が、大三元だということを知りました。



9月22日 梅蘭芳記念館 798 芸術区 頤和園 京劇

梅蘭芳はアメリカと関わりがあり、アメリカ軍が空爆をする際に日本の知識を持つ梅蘭芳の正しい助言により、文化的遺産が多く残る京都や奈良への戦火は免れたことを知りました。また、彼自身も京劇の分野から初めて、中国と日本に大きな影響を与えてくれたことを知って、日本に貢献してくれた彼が中国でも記念館が建てられるほどに評価されていることはとても嬉しく思いました。

798 にパナソニックの工場があったことが意外でした。知らないところで様々な形で日中関係は存在しているのだと考えました。

頤和園は中国の景色の良いところを選びすぐって作った場所であると聞きました。作ってしまうところがすごいなと思いました。スケールの大きさに驚きました。

京劇は理解できるか不安でしたが、外国人でもわかりやすくつくられていて、特に一番最初にみた暗闇のなかで戦う演目がおもしろかったです。最後の演目は少しわかりにくく、見る人によって感想が違ってくるのかなと思いました。



9月23日 首都師範大学 北京航空航天大学

首都師範大学で交流会がありました。向こうの学生からは、「蜘蛛の糸」の朗読そして、「1emon」の歌とギターが送られ、こちらからは柔道の技の体験、「マリーゴールド」、「告白気球」の歌と演奏、そして、漫才を送りました。マットがなかったものの、特に柔道の技の紹介が盛り上がりました。その後も各自で交流という形で交流しました。各自で交流する方法がやりやすくしっくりきました。各々話しかけに行ったり、ステージを使って、中国語や日本の歌を一緒に歌ったりしました。この経験は今回の訪問で自分にとって一番記憶に残りました。楽器により私たちを包む空気が和気藹々となり、仲良くなる、相手のことを知るのにこういう方法もあるのか、こういった入り方もあったのかと感心しました。



9月24日 帰国

大阪に到着し、別れを惜しんでそれぞれが帰路につきました。

○感想

出発前に団長と訪中団に関わる全員が楽しめることをコンセプトにし、見事実現できました。また、楽しむだけでなく中国の事情講座からはじまり中国の政治的機関である外交部で貴重な記者会見の様子を見学できたり、日中友好の先人である梅蘭芳について学べたり、様々な分野を通して訪中団44人を知っていく素晴らしい体験となりました。自分自身とし

でも、何度か中国は訪れていましたが、交流する学生の素晴らしさ、料理の豊富さ、そしてその量、観光地の愉快さを十分に堪能し、知ることができました。特に師範大学の自由交流の時間に中国の学生とともに音楽で交流したことはやはり一番の思い出となりました。今回、最も成功の鍵となったのは、ともに交流した仲間たちのおかげであると感じています。個性的なメンバーだらけで楽しかったです。場を盛り上げる一行がいたり、撮影に徹する人がいたり、シャイで、二人で常に行動しているが観光と食事は思い切り楽しむという人がいたり、ミャンマー語を含む五ヶ国語を操る人がいたり、夜にダンスで交流する人がいたり、一見まとまらなさそうな人たちも引率の方々ののおかげでしっかりまとまっていたかなと思います。一週間滞在することで、一度日本の外に出ることで、自分は、外国人だということ認識でき、日本を客観的に見る目を養えたと思います。中国を日本と比較することで、それぞれの特徴を一週間前よりも把握できるようになりました。中国は国土も人数も段違いであること、考えが一通りしかなくややこしくはないが、どうかと思いました。町中を見ても、愛国などがよくでかかど書かれているので日本とは文化も考え方もいい意味でも悪い意味でも違うなと考えました。日本は世界を基準にすると小さいが国民一人ひとりを一定の水準まで養護できる豊かな国だということを感じました。最後の晩餐にて、メッセージ付のTシャツをもらえてうれしく思いました。副団長として出し物をしたこと、引率の方々や団長のサポートを常に心がけてきたからこそそのうれしさだと思いました。人生において本当に濃い一週間を過ごせました。このイベントを主催してくれた領事館のかたがたには感謝の気持ちでいっぱいです。

○来年度以降の西日本大学生訪中団の方々へアドバイス

- ・一日あればTシャツや下着など乾きます。洗たく用洗剤を持っていくのがおすすめです。
- ・使い慣れたお風呂セットを持っていくことをおすすめします。
- ・ファブリーズ、靴の湿気をとる新聞紙は役にたちました。
- ・交流した学生に贈るお菓子などがあればいいでしょう。
- ・ホテルの換金は一回の利用で手数料が 30 元とられます。まあまあ高いです。より多くの団員と一緒に換金してしまうのがおすすめです。一番は日本でしてくる事です。
- ・思い切り楽しむこと！ 節度ある行動を心がけること！





2019年西日本大学生友好訪中団報告書

関西外国語大学
英語国際学部英語国際学科
166671 榮田佳恵
2019年10月5日

★日時：2019年9月18日～9月24日(6泊7日)

★天候：最高気温 25～29度前後

最低気温 15～19度前後

日本よりもカラッとした晴れで昼間は汗ばむほどの陽気でした。夜になると、羽織物がないと肌寒く、日中と夜の寒暖差が大きかったです。空気の汚染はあまり気になりませんでした。日本よりも乾燥していました。

★持って行っておいてよかったもの：

- ・SIMカード
- ・ウェットティッシュ
- ・ティッシュペーパー（トイレにペーパーがない場所があります。）
- ・胃腸薬や風邪薬（中国料理は日本人には油っこく感じるかもしれません。胃や喉の調子が悪くなっている人もいたので飲み慣れた薬はあるといいと思いました。）
- ・生理用品
- ・簡単な非常食（生野菜がなかったので、野菜ジュースを持ってきていました。）

★ホテル：北京前門建国飯店



ホテルは二人で一部屋です。アメニティーはミネラルウォーター、冷蔵庫、湯沸かしポット、ティッシュペーパー、トイレトペーパー、スリッパ、ハンガー、バスローブ、タオル、ドライヤー、シャンプー、ボディソープ、石鹸、くし、歯磨きセットなどでした。リンスやトリートメントはなかったので普段使う人は持っていくのを勧めます。朝食はバイキング形式で、おかゆや油条などの中国の朝ご飯もありますが、サラダ、果物、パンなど洋食もありました。ホテル付近にはコンビニ、少し歩くと大きなスーパーがあります。地下鉄は徒歩5分圏内にありました。

一日目（9月18日）

日本 15:30 出発ー北京首都国際空港 18:30 到着（現地時刻）

北京到着後、『老边饺子馆』で夕食をとりました。他大学の学生と自己紹介をしながら、初日は中国といえば！の回るテーブルを囲んでみんなで中国料理を楽しみました。テーブルに乗りきれないほどの料理が用意され、食べきれないほどの料理を用意することが中国のおもてなしだと感じました。参加学生の所属学部も様々で他大学の学生との会話も弾みました。



二日目（9月19日）

(1) 中国教育国際交流協会訪問・中国国情講座



(2) 中国外交部新聞報道局訪問

中国外務省の耿爽報道官の記者会見を見学させていただき非常に貴重な経験でした。報道官からは、記者会見において難しいことや中日友好のために今の中国を自分自身の目で見て感じてほしいというお話をいただきました。

歓迎会（夕食）

中国料理を楽しみながら、舞台上で一人一人自己紹介をしました。王宏伟先生の演奏に合わせてみんなで『山居秋暝』を歌いました。また団長・副団長はあいみよんの『マリーゴールド』、周杰倫の『告白气球』を披露してくれました。他にも漫才をしてくれたメンバーもいて、楽しい雰囲気でのみんなの仲も深まる歓迎会でした。



三日目（9月20日）

(1) 北京大学訪問

北京大学の学生との交流では中国人大学生の卒業後の進路やお互いの国の好きな料理や日本のアイドルなどの豊富な話題でディスカッションをしました。中国での学生は日本と比べ、大学入試は各大学ではなく統一された試験であり、その結果で入れる大学が決まると聞き、驚きました。ディスカッションの後は北京大学のキャンパスツアーで

諸説はあるそうですが、名前が付けられないほど美しいといわれている『未名湖』や『博雅塔』を見学しました。



(2)故宮見学

明清朝時代の旧王宮である故宮の建物に施されている色使いや黄金の龍はとても煌びやかで感動しました。

屋根の上には神獣が居り、建物周辺には鳳凰、また、火災に備えるための水瓶も至る所にありました。



(3)朝陽劇場雑技団鑑賞

見ているこちらが手に汗を握るようなハラハラドキドキのパフォーマンスは衣装や音楽などからも中国の伝統文化が感じられ、とても楽しむことができました。





夕食『小吊梨汤』

北京ならではの梨のスープはとろっとした珍しい口当たりで濃厚な甘さがあり蜂蜜のようでした。



四日目（9月21日）

(1)慕田峪長城見学

敵の侵入から守るためにずっと続いている大城壁の壮大な景色は素晴らしいものでした。



昼食バーガーキング

(2)天壇見学

五穀豊穡を祈るために建てられた祭壇は色や柱の数など緻密に計算されていることに驚きました。青は天を表し、黄色は高貴、緑は平民などすべて意味があることを知ることで更に面白く感じました。



五日目（9月22日）

(1)梅蘭芳記念館見学

梅蘭芳が10年間住んだ家そのまま記念館になっています。京劇を世界に広げた梅蘭芳の生涯の写真や女形を演じている梅蘭芳の演技は豪華な衣装を纏っていると思えないほどなめらかでした。



(2)798 芸術区見学（昼食）

至る所にある様々な中国の現代アートは面白く、雑貨店や楽器屋、カフェなどもありました。



(3)頤和園見学

印象深かったのは長廊で、天井や梁に全て異なる風景画や人物画が描かれていたことです。



(4)京劇鑑賞@梨園劇場

お話は三つありましたが、中でも私は、二人の主人公が真っ暗闇の世界でお互いの姿が見えない中戦うという話が印象的でした。重力があると思えないほど身軽な素早い動きがたくさんあり、それぞれの役や立場によって衣装の色合いやデザインが違うのも面白かったです。



六日目（9月23日）

(1)北京师范大学訪問・交流

北京師範大学の学生との交流で、日本の文化では特にアニメに興味を持って、日本語を勉強し始めたと言っている学生がたくさんいて、とても嬉しかったです。

昼食



(2)北京航空航天大学見学

航空や宇宙に関する学科に特化している中国の国家重点大学です。

大学内の航空航天博物館には、航空機、宇宙服などが展示されていました。



夕食（炸酱面）



七日目（9月24日）

帰国

北京 10 : 10 出発—関西空港 14 : 00 ごろ到着



感想と後輩へのアドバイス

私は今回訪中団に参加して、中国の歴史や文化の理解がさらに深まりました。そして実際に遺産を訪れ、現地の方々との交流を通して、自分の目で見て聞いて何を感じるかが一番大切なことだと思いました。なぜなら、私は留学や旅行で何度も中国を訪れていますがそのたびに新しい発見や印象が思いがけず変わったりすることがあるからです。現在は色々な情報が溢れていますが、実際に自分で確かめてみないと分からないこともたくさんあると思います。何事も本当の情報を正しく理解して、対人との交流を大切にすること、そして根拠のない先入観にとらわれないこともまた、中日友好のために必要だと感じました。私は、この経験を活かしてこれからも中日友好のために中国と中国語を学び続けていきたいと思っています。



「2019年 西日本大学生友好訪中団」レポート

166704 久保 愉美

本年は「日中青少年交流推進年」にあたり、中華人民共和国駐大阪領事館は、9月18日～9月24日まで私たち「西日本大学生友好訪中団」を中国へ派遣しました。

私は光栄なことに昨年につき参加することができました。今年は、引率の先生3名、西日本7大学44名と共に中国を訪問しました。

1日目は20時頃に北京に到着したため、夕飯だけを食べて、ホテルへ戻り、1日が終わりました。



2日目の午前中は中国教育国際交流協会を訪問しました。北京大学の教授が中国の歴史について講座をしてくださり、中国についてより知ることができました。

午後は、なんと中国外交部報道官へと行きました。テレビ等でよく見かける耿爽報道官が記者会見を開いているのを目の当たりにできたのは、本当に感動的でした。その後はお

忙しいにも関わらず、少しの間私たち訪中団に質問の時間をいただくこともできました。私は“「日中の架け橋」になるには何をすべきか”と質問をしました。“福原愛さんのように卓球をすればいい”という冗談を言うとてもフランクな方でした。質問ができたことは、本当に夢のようでした。



この日の夜には歓迎会があり、44名全員がステージに上がり、自己紹介をしました。これを機により多くの他大学の学生と交流することができ、みんなの仲が一気に深まった日になりました。

3日目 北京大学を訪問しました。約1時間半の交流時間が用意されており、ゲームをしたり、校内を観光したり、私たち関西外大生はみんなでお揃いの北京大学Tシャツを購入したりしました。北京大学で有名な「未名湖」などの歴史話を直接北京大学生に聞けたりできて、大変満足した1時間半でした。



そして、午後は、人生で初めて雑技を鑑賞しました。どのパフォーマンスも素晴らしくて、言葉で言い表せないくらいすごくて、終始皆口が開いた状態になりました。ぜひ多くの方にも一度は必ず観ていただきたいです！！



4日目 万里の長城に登りました。ロープウェーで途中まで登ったんですが、それでも頂上までの道のがすごくしんどかったです。それでも、皆で頑張ろう頑張ろうと互いに励ましあい、時間内に登り切ることができました。

また、午後に天壇公園へ行きました。私が天壇公園に行ったのは4回目になりますが、

ここは何度行っても何回も写真を撮りたくなる場所でもあり、中国のスケールの広さと神秘性を感じられる世界遺産なので、すごい魅力を感じました。

関西外大のこの7名で皆同じTシャツを着て、天壇公園でこんな素晴らしい写真を撮れたのがすごく嬉しかったです。



5日目 798 芸術区は魅力的すぎて、皆がもっここにいたい！と言った場所です。中国の現代アートが集結していて、閉鎖した建物をイベントスペースやアートスペースとして活用しているので、廃工場を散策している感覚になりました。私は、神戸学院大学の学生たちと思い出の写真を撮りました。



※ジャンプの写真がなかなか撮れず、何度も何度もジャンプをして、撮れた奇跡の一枚です。

6日目 訪問の最終日は、「北京師範大学」と「北京航空航天大学」を訪問しました。両大学共に私が行って見たかった大学なので、とても興奮しました。

昨年、私は団長として訪中団に参加していましたが、今年はいち参加者として中国を訪問しました。昨年先頭に立ち、引っ張っていく、まとめることで頭いっぱいになり、思いっきり楽しむということを忘れていました。ただ、今年はまた違う形で、影で支える役割として参加し、今年の団長を見て勉強になることが多かったですし、交流の仕方も学ぶことができました。訪中団は、中国の現地の学生だけでなく、訪中団に参加されている日本の学生とも交流ができ、一週間で一生の仲間、一生の思い出を作れる場でもあります。私は昨年も今年も大切な仲間たちを作ることができたことを大変嬉しく思います。

また、私の夢である「日中間の架け橋」になるという夢に少しではありますが、近づけた気がしました。昨年も今年の訪中団も私にとって非常に刺激的な体験でした。中国の学生と触れあい、互いの考えを知り、多様な考えが重要であることを学びました。たった一

週間の訪問ではありましたが、私は訪中団の経験をより多くに人に伝え、多くの日本人に中国を訪ねてもらいたいです。人生で二度も大変貴重な経験ができたことは、一生忘れられないです。

最後に、このような貴重な機会を作ってくださった、協力してくださった中華人民共和国駐大阪領事館・中国駐大阪観光代表処・中国東方航空・引率の先生方・関係者の方々に感謝を申し上げます。

訪中団に参加して

今回、私は引率者3名を含む47名の訪中団参加者と共に、9月18日から9月24日の7日間、中国へ行きました。全体的な感想として、今回の経験でより深く中国のことを知ることができ、また、中国人学生や他大学からの日本人参加者との交流が非常に多く、人脈を広げることができたので、とても良い経験ができたと思いました。是非、後輩の皆さんにも行ってもらいたい素晴らしい機会だと感じました。

● 一日目



空港で集合写真を撮り、良い雰囲気の中、中国まで向かうことができました。

現地に着いて初めての食事は餃子でした。食べきれないほどたくさん出てきたのですが、どの種類の餃子もとても美味しかったです。7日間滞在したホテルはとても居心地よく、コンビニも近くでアメニティも揃っており便利でした。ただ、リンスが無く髪がキシキシしたので、気になる人は日本から持参したり現地購入したりするほうが良いと思いました。

● 二日目

中国教育国際交流協会にて中国のことについて学びました。その後、昼食をとり中国外務省新聞発表庁を訪問しました。たくさんの記者やカメラがあり、緊張感のある雰囲気です。少し驚きました。一人一つずつイヤホンが渡され、記者とスポークスマンとのやりとりが同時通訳された英語で流れたので中国語にあまり自信のない人でも、話を理解することができると思います。発表後、私達とスポークスマンの方で談話や質疑応答をしました。発表中の厳しそうな雰囲気とは違い、冗談を交えて私達の質問に答えるなど、とてもフレンドリーに接してくれました。その夜は、ホテルで歓迎会があり、歌とギター演奏や、中国語でお笑いなどの出し物がありました。また、一人ずつ前で自己紹介をする

機会があり、そこで参加している皆さんがとても個性的で、普段大学では知り合えないような経歴をもつ人がほとんどで、これを機に皆と仲良くなれたらいいなとより強く思いました。

● 三日目

北京大学を訪問しました。とても広い敷地をもつ大学で、大学の中に一つの街があるようでした。北京大学の学生と交流する機会があり、大学ごとにグループに分かれて中国人学生と交流したり、北京大学内を見学したりしました。交流会では、お互いのことについて自己紹介をしたり、互いの文化について、どのような部分がどう違うかなどを中国語や、英語を交えて話し合ったりし、お互いの国や文化、習慣について理解を深めることができました。その後に、故宮に行きました。緑がたくさんあって、とても優雅な雰囲気でした。夜は中国雑技団を見ました。とても迫力があって、中国には古い歴史以外にもこのような文化があるんだと感じました。



● 四日目

万里の長城へ登りました。ロープウェイを使ったので簡単に登ることができました。一度登ったことはあるのですが、何回見ても飽きないくらい景色が壮大で、また行きたいと思いました。時間の関係上、私は頂上までいくことができなかつたのですが、それでもとても満足できました。また、天壇公園では、色使いが綺麗で敷地も広く、他の参加者とたくさん写真をとることもでき、良い体験ができたと思いました。

● 五日目

北京師範大学に訪問し、日本語学科の中国人学生と交流しました。柔道の実演や、日本語朗読、演奏やお笑いなどの出し物があり、とても盛り上がりました。また、一時間ほど彼らと雑談ができる機会があり、中国語と日本語を交えてさらに交流を深めることができました。また、夜には中国の伝統劇である京劇を見に行きました。想像していたよりもアクロバティックで、話もユニークで、現代の人達も昔の人達も同じ感性を持っているのだなと少し不思議に思いました。

● 六日目

訪問した北京航空航天大学では、ブラックウィドウなどの航空機や、宇宙服など、貴重なものを近くで実際に見ることができました。今まで、このような分野を学んだことがなかったので、為になりました。また、景山公園では広大な庭園のほか、北京の街を見渡すことができ、きれいな写真をとることができました。夕食時には、お世話になったガイドさんや引率者の方々にお礼の色紙やTシャツをあげました。これ以上ないほどに盛り上がったので、前日の夜に皆で集まって書いた甲斐があったと感じました。



● 七日目

最終日は早朝に北京を出発しないといけなかったのですが、起きてすぐに空港へ向かい、これまでお世話になったガイドさんやインターン生とお別れをしました。一週間しか一緒にいることはできませんでしたが、とても濃い思い出をつくることのできたと感じています。また、一緒に訪中団に参加した日本の学生の皆さんとはすぐに仲良くなることができ、帰国した後も連絡をとるなど、良い関係を築くことのできたと思いました。